

平成30年度 佐鳴湖水質調査の結果



平成31年2月 佐鳴湖地域協議会

佐鳴湖では、住民の方に協力していただいて、水のきれいさや生物の豊かさなどを調査しています。平成19年10月から始めたこの調査は11年以上継続し、通算46回を数えました。ここで、平成30年度に実施した春・夏・秋・冬（第43回～第46回）の調査結果をまとめて発表します。

調査は大きく分けて「アンケート調査」と「簡易水質調査」の2つがあります。「アンケート調査」は住民のみなさんに調査地点の水を見たり触れたりしてもらい、評価や感想を回答するものです。「簡易水質調査」は現地で簡単な器具を使い、水質をすばやく調べるものです。それらの結果と静岡県が詳しく測定した水質の調査結果をあわせて、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」と「豊かな生態系の確保」などの視点から、佐鳴湖の環境を評価しています。

- 調査日
 - 第43回（春） 平成30年 5月26日（土）
 - 第44回（夏） 平成30年 8月18日（土）
 - 第45回（秋） 平成30年 11月23日（金）
 - 第46回（冬） 平成31年 1月26日（土）

視点	調査の内容	
	アンケート調査	簡易水質調査
人と湖沼の豊かなふれあいの確保	ごみの量、水のおいしさ、湖底の様子、アオコ発生、水辺の音、水の透明さ、水とのふれあいやすさ	透視度、透明度、700フィルの簡易確認
豊かな生態系の確保	水辺の植生、水生生物	溶存酸素(DO)、アモニア態窒素(NH ₄ -N)
湖沼の基本的特徴の表現	—	pH、COD

■ 調査地点
右の図に示す佐鳴湖の水辺4地点で実施しました。

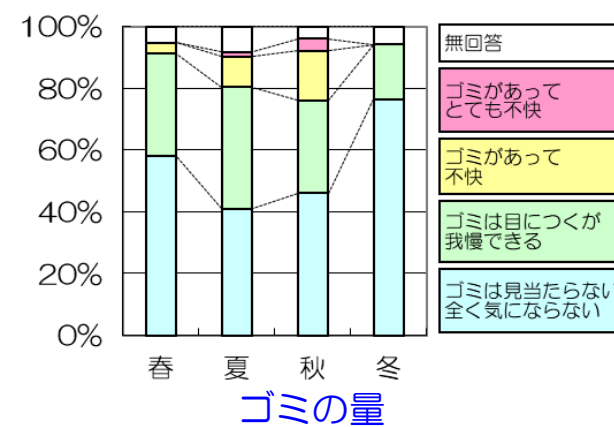
■ 参加人数
平成30年度は、計4回の調査でのべ106人の方に参加していただきました。参加者は2班に分かれ、1人2地点ずつ調査をしました。



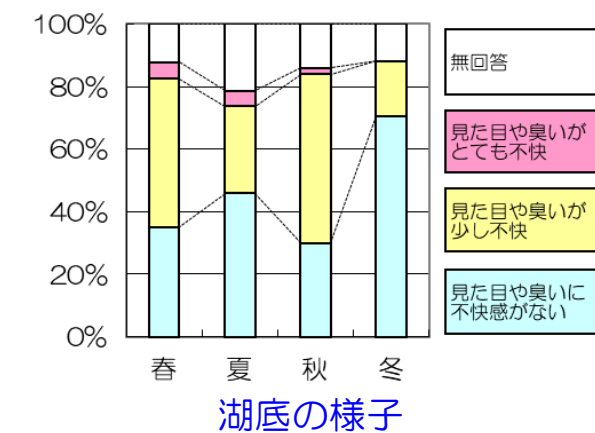
※地点③については、今年度は調査をしていません。

アンケート調査の結果

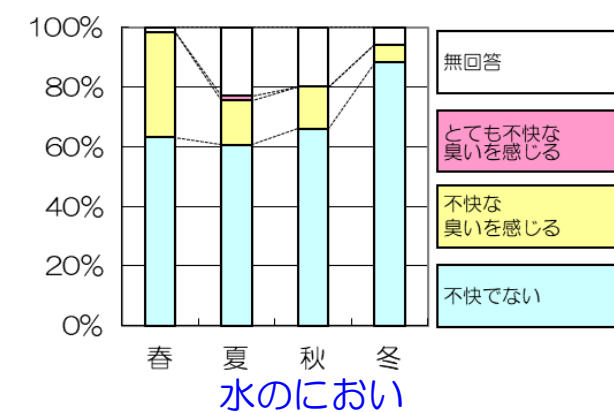
季節ごとにすべての地点の回答を集計しました。おもな調査項目の結果は、以下のようになりました。



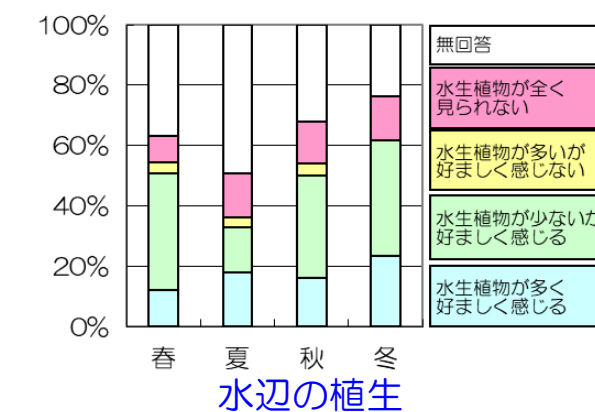
「ゴミは見当たらない、全く気にならない」という回答が最も多くなりました。



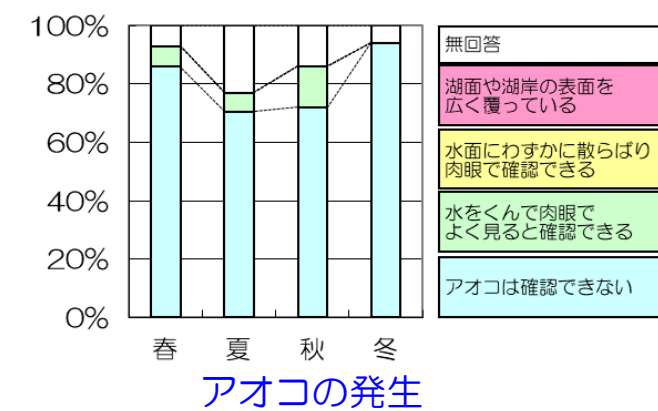
「不快感がない」「少し不快」という回答が多くなりました。



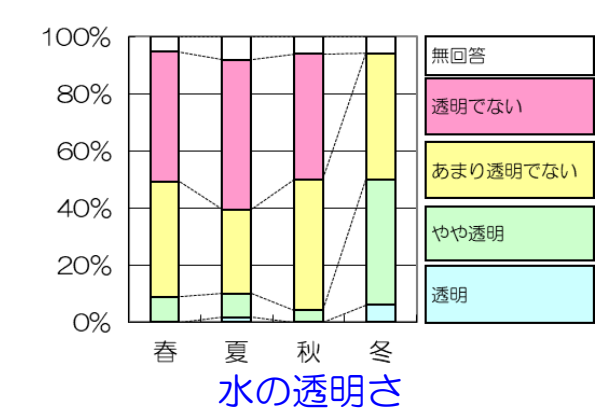
水のおいしさは、「不快でない」という回答が半数以上を占めました。



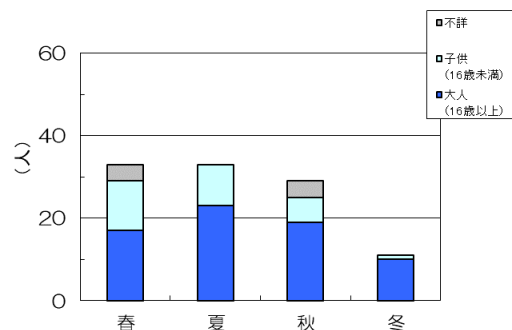
水辺の植生は、季節や地点によって回答が変動しました。



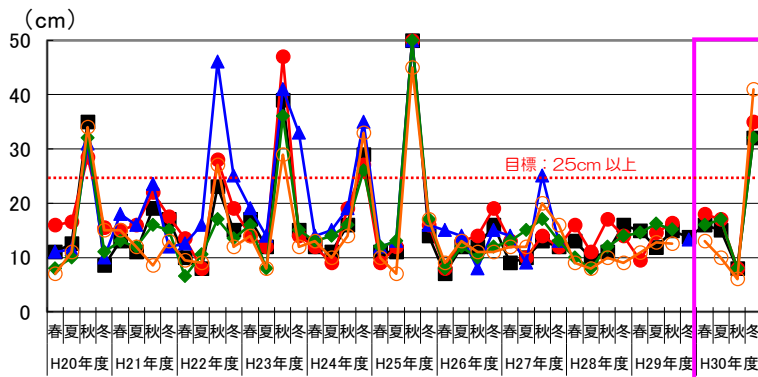
アオコは確認されませんでした。



冬は、「透明」「やや透明」という回答が多くなりました。



簡易調査の結果

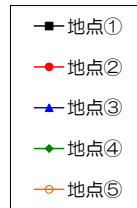


クロロフィルの簡易確認

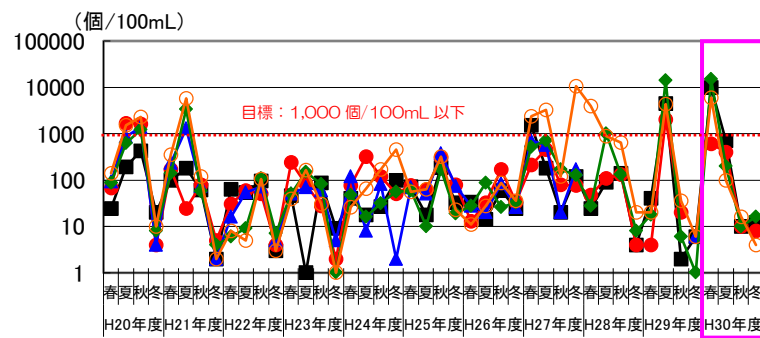
注射筒とろ紙を使って、200mLの水をろ過しました。ろ紙の色を「色見本」と比較して、最も近い色を記録しました。植物プランクトンの種類や量が変化するのに合わせて、季節ごとに色が異なっていました。

透視度

平成30年度は、冬の調査で25cm以上（Bランク）の目標を達成しました。目標達成は、5年振りとなります。

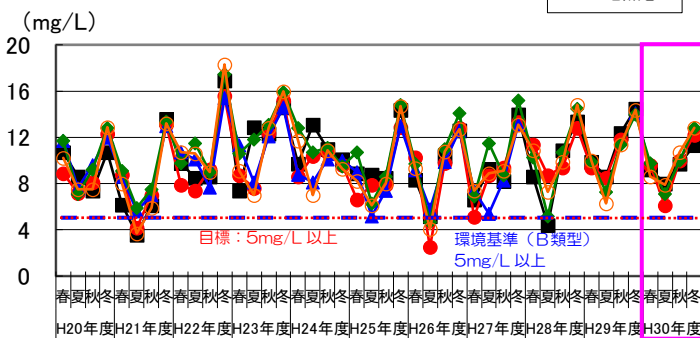


河川管理者（静岡県）による測定結果



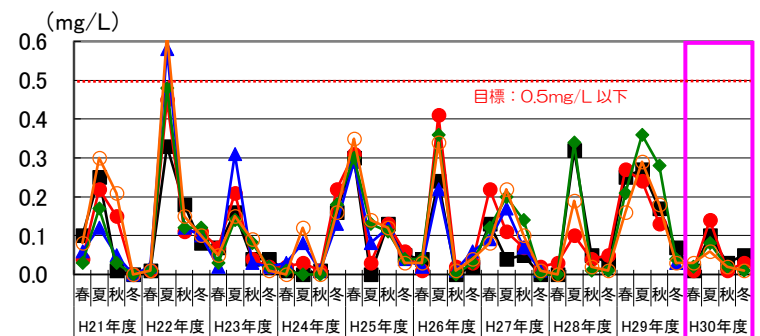
糞便性大腸菌群数

平成30年度は、春に3地点で目標値（1,000個/100mL以下）を達成できませんでした。



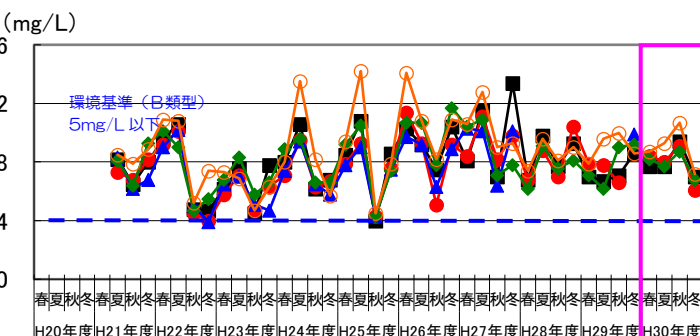
DO (溶存酸素)

平成30年度は年間を通して、5 mg/L以上の目標値を達成しました。



NH₄-N (アモニア態窒素)

平成30年度は年間を通して、0.5mg/L以下の目標値を達成しました。



COD (化学的酸素要求量)

平成30年度は、6.1~10.7mg/Lの範囲でした。冬の調査で、値が最も低くなりました。

水生生物調査の結果

2リットルのペットボトルで作ったしかけを前日から沈めておき、どのような生物がとれるか調査しました。また、タモ網を使って岸近くの生物を採取しました。簡易的な調査ですが、平成30年度は、年間で21種類の水生生物が確認できました。



今年度の調査で確認されたおもな水生生物

- オイカフ
- ウナギ
- メダカ
- シマイサキ
- カワアナゴ
- マハゼ
- チチブ
- クロベンケイガニ
- アシハラガニ
- モクスガニ
- スジエビ
- テナガエビ
- ヌマエビ
- 他

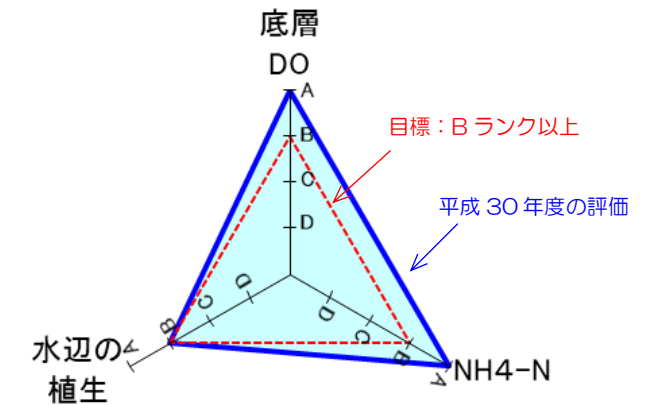
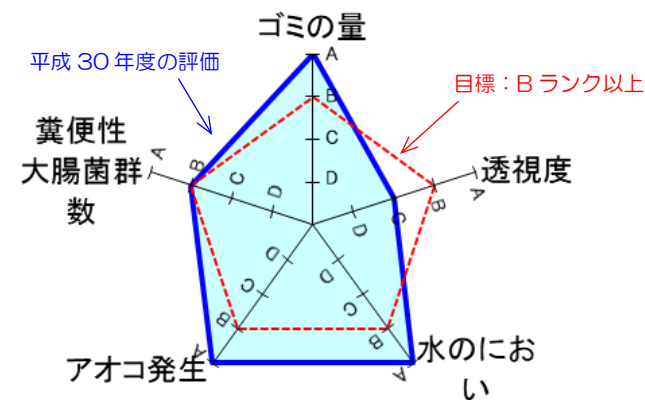
現地で分かる範囲で観察しました。

新しい水質管理指標（案）による評価

平成30年度の調査結果を、国土交通省の「新しい水質管理指標（案）」で評価したものが下のグラフです。佐鳴湖の当面の目標は、すべての項目でBランク以上になることです。今年度は「透視度」がCランクとなり目標は達成できませんでしたが、全8項目のうち5項目でA評価となりました。

人と湖沼の豊かなふれあいの確保

豊かな生態系の確保



ランク	説明	ランクのイメージ	評価項目と評価レベル							
			住民との協働による測定項目			河川管理者による測定項目				
			ゴミの量	透視度 (cm)	水のにおい	アオコ発生	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)	底層DO (mg/L)	NH ₄ -N (mg/L)	水辺の植生
A	顔を湖沼の水につけやすい		湖沼の中や水際にゴミは見あたらぬまたは、ゴミはあるが全く気にならない	50以上	不快でない	アオコは確認できない	100以下	7以上	0.2以下	水生植物が多く、好ましく感じる
B	湖沼の中に入って遊びやすい		湖沼の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	25以上		肉眼ではアオコが確認できないが、水を飲んで肉眼でよく見ると確認できる	1000以下	5以上	0.5以下	水生植物が少ないが、好ましく感じる
C	湖沼の中には入れないが、湖沼に近づくことができる		湖沼の中や水際にゴミがあって不快である	25未満	水に鼻を近づけて不快な臭いを感じる	アオコがうっすらと筋状に発生していて水面にわずかに散らばり肉眼で確認できる	1000を超えるもの	3以上	2.0以下	水生植物が多いが、好ましく感じない
D	湖沼の水の魅力がなく、近づきにくい		湖沼の中や水際にゴミがあってとても不快である		水に鼻を近づけてとても不快な臭いを感じる	アオコが湖面や湖畔の表面を広く覆い、かたまりもできている		3未満	2.0を超えるもの	水生植物が少なく、好ましく感じないまたは、水生植物が全く見られない

この調査結果の詳細については、こちらまでお問い合わせください。

お問い合わせ先：佐鳴湖地域協議会

(事務局) 静岡県浜松土木事務所 企画検査課 TEL053-458-7266

